

| 受験方式

一般選抜		教科	満点	英	国	日	世	政	数IA	数IB	他	備考
人間科	<文系方式>	3	150	50	50	(50)	(50)	-	(50)	-	-	

| 志願者推移 (数値は集計日時点による)

※志願者割合は各年度の志願者÷定員の値を比較 (△:増加% ▼:減少%)

一般選抜		20'定員	20'志願者	21'定員	21'志願者	志願者割合	備考
人間科	人間環境科	115	2,406	115	1,916	▼20%	
	健康福祉科	125	2,608	125	2,043	▼22%	
	人間情報科	100	1,566	100	1,407	▼10%	

| 入試問題分析

| 英語

入試問題分析

問題形式は例年と変わらない。大問1では、200～300語程度の読解問題が8題あり、一つ一つは短いが高体的には高い持久力が求められる。内容把握問題では、「本文の内容と一致する記述を選べ」という問題において、「ALL OF THE ABOVE」(全て当てはまる)という選択肢が含まれており、それにより難しくなっている。学部・性質上、理科系の題材を扱う英文も頻出。それに伴い、数値を扱う設問も頻出である。大問2では正誤問題が出題されているが、NO ERRORという選択肢も含まれているため難解な問題である。

| 現代文

入試問題分析

大問一題(全13問・記述+マーク)、論説文。
出題形式は①:傍線読解問題(選択+抜き出し)/②:空欄補充問題(選択+抜き出し)/③:内容一致問題。

文章・設問ともに難解で選択問題も正誤判定に迷う場合が多いが、今年度は比較的解答根拠が明確な問題が多かった。とは言え目立った傾向の変化はなし。課題文が抽象度の高い論旨の掴み辛い内容で、早稲田・上智大レベルの演習を重ねて慣れておく必要がある。出題形式などに特別際立った特徴はないが、唯一解を導き辛い設問に拘りすぎず、確実に正解できる問題に集中するといった実践力が必要。早稲田内では過去問演習が最も有効な学部。

| 古文

入試問題分析

古文は、単語・文法問題は基礎～標準レベルの問題が大半。解釈問題も単語+文法で選択肢の絞り込みが可能。傍線部内に「指示語」があれば、指示語を特定することで正解に近づける。漢文は、返り点・書き下し文・解釈問題ともに、基本語句と句形を理解していれば解ける問題が大半である。

本学部の試験時間は、現代文と併せて大問計3題で60分。素早く解くスピードが要求されているが、古文・漢文は基礎～標準レベルの問題が大半なので、古文・漢文を素早く(目標20～25分)解いて、現代文に時間を割くのが理想的。

| 日本史

入試問題分析

例年通り正誤判定と選択問題のオールマーク方式で出題形式に変化はない。大問一つが史料を読み取らせる問題となっている。また、正誤問題などでは一部細かい知識を問われているが過去に何度も出題されている知識などで対応はやりやすい。選択問題やほとんどの正誤問題は基本知識で判断できるはず。

| 世界史

入試問題分析

例年、大問数は5つ(2020年度は4つ)。問題数は毎年47問前後。記述式問題は一切なく、全問マーク式で、4・5択正誤判定問題、4・5択空欄補充問題で構成されている。毎年、数問だけ難易度の高い情報が出題されるが、可否には無関係。例えば、2021年度は、奉先寺洞、遼の第2代太宗(耶律堯骨)、2018年度のセプティミウス・セウェルスなど。

文化史は、2019年度は47問中5問、2020年度は50問中0問、2021年度は47問中4問。年号が絡む問題は2019年度が5問、2020年度は9問(しかし、実質24個の年号を把握しておく必要があった)、2021年度は7問。出題範囲は満遍ないが、2020年度は古代史が出題されなかった。ところどころ細かい知識が散見されるが、可否には無関係だろう。地図問題は2019年度が1問(さらに、地理的知識がないと解けない問題が1問)。2020年度は出題されなかった。2021年度は地図問題が1問。

| 数学

入試問題分析

60分で大問5題と、時間的余裕は全くない(60分で解ききるの難しい分量)。大問2は小問集合が出題されている。全問マークのため、要領よく解き進められたかがカギ。大問2、4をどれだけ正確に、かつ素早く解けたかで、得点は大きく変わったであろう。また、大問2(3)のように、細かい条件を落とすと答えが変わってしまう問題にも注意が必要。まずは標準レベルの問題を見た瞬間に解けるようになっておくことが重要。そのうえで思考力を要する問題に取り掛かっていきたい。